



ポスターの部で表彰されたみなさん



「家庭の日」「オアシス運動」最優秀・優秀作品表彰式



作文の部で表彰されたみなさん

目	次
乳幼児教育研修会	2~3
特集: フリースクール	
NPO法人「産の森学舎」の取り組み	4~5
「家庭の日」「オアシス運動」	
最優秀賞・優秀作品表彰式	6
賛助会員へのお知らせとお願い	6

(公社)福岡県青少年育成県民会議	
賛助会員のご紹介	7
青少年の健全育成を考える	
「青少年育成“考”」	8
事務局だより	8

(公益社団法人)福岡県青少年育成県民会議は、

青少年問題の重要性にかんがみ、広く県民の総意を結集し、国や県の施策に呼応して、総合的な運動を展開し、将来を担う青少年の健全な育成を図ることを目的に昭和41年12月13日に結成されました。

(昭和45年社団法人。平成25年4月1日公益社団法人に移行となる。)

令和4年度

乳幼児教育研修会

日時 令和5年2月8日(水)
会場 福岡県教育庁福岡教育事務所

毎年この時期に多数の参加者を集め、好評を得ている催しが「乳幼児教育研修会」である。乳幼児については、令和4年一年間の出生数が80万人を切る見通しであるとの報道の一方で、保護者をはじめ、乳幼児期の育児不安を抱える声も少なくない。そこで本年は、怠りなく新型コロナウイルス感染症対策を構じて、会場一杯に約70名の参加者が集い、研修会を実施した。

開会挨拶

研修会の開会に当たり、県民会議の杉原敏子家庭部会長が主催者挨拶。

「ここ2年間は、コロナウイルス感染症拡大防止のため研修会を中止していたが、今年度は参加者の協力を得て開催できたことを嬉しく思う。」と、まずはお礼が述べられた。そして、豊かな心情や意欲、態度を身に着け、新たな能力を獲得していく子どもの発達においては、乳幼児期の周りの環境との相互作用が重要であることを強調した上で「本日のこの研修会を家庭や仕事でのヒントを得る機会にして頂きたい」と呼びかけられた。

事例発表

「育児支援プログラム」IPPPO(いっぽぽ)

宮若市子育て福祉課・子育て支援センター

発表：松井 弘恵 センター長

今年の親子教室事業発表は、宮若市。

市が取り組んでいるのが、「IPPPO」。これは「はじめのいっぽセミナー」の意味を持つ体験型親育ちプログラムのことであり、宮若市では平成23年度から試行的に実施。産後育児不安の軽減、密室の育児から外出への動機づけ、親子の出会いの場の提供などを行いながら、育児支援、虐待防止に取り組んでいる。

★IPPPOの基本理念

- あかちゃんを「感じる」
- 母子が一緒にいて楽しい
- 母と子を中心に 等



★IPPPOの活動内容

- 対象：第1子が生後2ヶ月〜4ヶ月の乳児とママ
- 参加定員：12組
- 1クルールの活動：家族構成等の事前インタビュー後に1回2時間のセッションを計6回

★参加者の感想

- 同じ悩みを抱えていることが分かり、気持ちに楽になった
- 気持ちも前向きになり、外へ目を向けられるようになった
- 私自身が笑顔になれた等の感想がありました。話を聞きながら、IPPPO事業では、行政内部の福祉部門と社会教育部門との連携がしっかり保たれていると感じた。
- 参加者の関心も高く、報告終了後は質問が相次いでいた。

基調講演

「乳幼児期における子どもの気になる行動」

原因の理解と対処法

特定非営利活動法人にじいるCAP

講師：重永 侑紀 代表理事

講師は「支援する側の発想の転換が必要である。もつと科学的な視点で見ようじゃないか、といった話となる」と切り出されました。そして「講演を聞いた後には、周りの人達が安心できる情報発信をしてくれる人になっていただければ」と、更に本日の講演の目的を、より具体的に説明されました。

「まずは、子ども、子育てに関する神話。正しいと思いついて行きたい」「次に、日常的なおしやべりの時は、不安にさせない情報、安心できる情報を発信してほしい」

「また、同じ情報発信でも、伝え方や伝える姿勢によって、相手に門戸を閉ざされることもあるのを知って欲しい。」

いずれも情報伝達の基本的な事柄であり、当然のことであろう、とうなづく内に、話が個別テーマに及んでいきました。

(1) これからの日本

自治体の役割

「まずはクイズが出題されました。「夜間に怒って家を飛び出した見知らぬ



男の子を見かけたら、何番に電話するか？」
1つは多分110番、もう1つは？」

答えは189番。24時間365日児童相談所に繋がる。なぜならそれが子どもの権利だから。子どもが安全を確保できない場合には、国民に通告の義務があるとされています。

今日では、自治体の仕事の幅も広くなりました。「相談できる力を付けましょう」と、学校ではSOSの出し方教育が始まります。子どもは危機に直面して「逃げる」「抵抗する」ことが体力的に困難であっても、周囲の保護者、支援者に「相談する」ことで確かに危機から脱出する成功率は高まりそうです。

「命の安全教育」も始まります。「性暴力の加害者にしない、被害者にしない、傍観者にしない」がスローガン。背景には、性暴力にあう確率の男女差があります。

★18歳までに性被害にあう確率

男子は10人に1人
女子は2・5人に1人

特に性暴力の8割が身内での事例であることに注目です。祖父、叔父叔母、家族から被害を受けるので、SOSを出しにくい状況。この点を踏まえた上で家族支援する必要があります。

(2) 子育てのリアル

●子ども基本法が今年4月に施行されます。国連で1989年に「子どもの権利条約」が採択され、日本も1994年に批准していますが、法律施行までに30年を要することとなりました。

●児童が一人以上いる世帯は、世帯全体の5分の1で、5分の4には、リアルな子どもがいます。令和時代の子育ては、「ワンオペ育児」となっています。

だからリアルな子どもとは接点のない世代や人たちが、子どもが育つ環境を、自分事として考えてくれるか否かが大事です。

●さて、冒頭で述べた「神話」は、あたかも真実のように信じられているもの。

●母乳神話であれば、「母乳じゃない」と、周りから指摘されます。何事も対立が生ずると、人間関係の中で一番力を持たされていけない子どもにしわ寄せが来ます。だから「じゃない」と攻撃は、一見正しそうですが、子ども支援には結びつきません。

(3) 科学的に捉えてみよう

●アタッチメント理論(愛着理論)は、心理学者ジョン・ボウルビーが提唱した理論。愛着理論と呼ぶと主語があいまいとなるので、「アタッチメント」と呼ぶ方が、思い込みがありません。例を挙げると、スマホとコンセントがあっても充電はできません。アダプタの付いた充電器があつて使えるようになります。ここにくつつけば、うまく機能する。「ここにくつつく」ことが大事なポイントです。

●人間は社会的生き物であり、より脆弱に生まれてきます。だから周囲には固定したメンバーが必要で、メンバーが頻繁に入れ変わればアタッチメント形成はうまく行きません。



●気をつけるのは、血のつながりは関係ないこと。いつもの人がいつもの所でいつものように

●関わってくれる。これがアタッチメント形成に欠かせない条件。

●学ぶには時間が必要です。先ず子どもたちは自分の養育者にだけ依存します。そして養育者も周りの養育者に依存したりされたりしていることを見聞きし、自分が社会に飛び出すことが怖くないことを感じていく。これが子どもたちにとって重要なアタッチメント形成です。「何でも一人でできるように」という育て方の方向性とは全く違います。

●人間は依存している生き物だから、誰かを頼りながら生きていくことができる、必ず助けられる、何とかなることを覚えて育つ必要があります。

●これができないために、日本では、自尊心が低い、自殺率が高い、SOSがなかなか出せないといった状況にあります。依存は悪いことではありません。

●大事なのは、「前向きに」応対してくれるアタッチメント対象者や養育者がいると、体験を繰り返している内に、子どもの中にその大人たちが住み着くことです。そして、子どもたちは、この大人たちを思い出して、感情と行動のコントロールをやつていくようになります。

●子どもが初めてお使いを頼まれ、一人で出かける場面を収録したテレビ番組をご承知でしょう。出演の子どもは、既に養育者と盤石のアタッチメント形成ができあがっています。しかもその家族が地域から孤立していません。ストレスを掛けられても周囲の大人を思い浮かべて会話をを行い、自分を調節しています。

●「こうやって家族と楽しく過ごしている、緊張度を下げているといった関係性が欠かせません」ということが、本日伝えたかったことであります」と、講演を締めくくられました。

小さな学校
はじめました



《お話》

大松 康さん

理事長/小学部校長
『もじとかず』『英語』
の授業を担当
2015年、任意団体として「産の森学舎」を開校し、2018年にNPO法人団体となった。
現在、小学部17人、中学部10人が通学している。

産の森学舎

NPO法人

産の森学舎は、「くらし」と「あそび」と「学び」をひとつながりで見つめなおすことから生まれた小さな学校（フリースクール）です。子どもたちが多様であるように、私たちの社会や生き方が多様であるように、学ぶ場も多様であつたら。自分の意見を持つこと、自分の力を発揮することへの情熱を持ち続けられる場があつたら。二組の夫婦が真剣に考えてカタチにしたら、こんな学校ができました。……産の森学舎ホームページより



特集

文部科学省によると、フリースクールとは、一般に不登校の子どもに対し学習、教育相談、体験等の活動を行っている民間の施設をいう。また、その規模や形態、活動内容は多種多様であり、個人や民間企業、NPO法人の自主性・主体性のもとに設置・運営されている。私たちが、今回訪問した「産の森学舎（さんのもりがくしゃ）」は、不登校の子どもの居場所でもあり、既成の学校教育制度の外にある「選んで学ぶ場」、「もう一つの学校」である。教育の機会が多様化する中、この小さなもう一つの学校のカタチを紹介したい。

山と海に囲まれたのどかな環境

「産の森学舎」は、糸島市二丈福井にある。唐津街道を行くと、右手に玄界灘、左には筑肥線がすぐそばを通っている。

本当にここに学校があるのかと思いつつ、車が1台通るくらいの小道を歩いてみると、子どもの声が大団んに大きく近づいてきた。大人が一人と3、4人の子ども達。わいわいと話しながら、手には菜の花を抱えている。まだ、2月のはじめ、寒波をやつと抜けた頃だった。

子ども達は小学部の異年齢グループ。今日のミッションで役割を担っている活動らしい。引率していたのは、「産の森学舎」の理事長で小学部校長を務める大松さん。帆前掛けをした半袖Tシャツのラフなスタイルに、小さな学校への期待が高まった。



校舎は築100年の古民家

5分ほど歩いて到着した学校は、すっかり村の中に溶け込んだ古民家だった。子ども達の声もしている。どうやら母屋の隣の大きな納屋が学校らしい。

納屋といっても元ミカン農家の古民家は広い。大きな梁、昔ながらの壁は8年前に開校したときに漆喰を塗り替え、電気も引いてある。急な階段も子ども達には何の問題もない。広々とした空間はコロナ感染予防のための換気対策にも万全だ。

納屋の1階が中学部の学習スペース。今日は3人が学習しているが、障子を閉めてあつたので、授業の邪魔はしないことにした。



2階では、小学部の5年生が古民家によくあるロフト風のこじんまりした空間で、ちゃぶ台を囲んで、昨年、行った山口県の秋芳洞の「振り返り」をしていた。小旅行、もしくは修学旅行といったところだろうか。講師は、この学校で『しぜん』の授業を担当する野島智司さん。みんな

社会の未来のために、私たちができることを。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

f @ncbankofficial

t @ncbank_official



西日本シティ銀行

なから「のじーさん」と呼ばれている。カタツムリについての著書もあり、自然について学んだ経験を多方面で生かしている。ここでは、教師のことを「先生」とは呼ばず、通称で呼んでいるようだ。



東京から糸島へ

大松さんは、もともと福岡市の出身。15年前に自身の生き方を考えていた頃、長女のアレルギーがわかり、東京でのサラリーマン生活を辞め、農業を志し糸島市に移住。

その後も保育園に行く長女の食事や環境が気になり、奥様の大松くみこさんは、2011年に届出保育施設『みづばちおうちえん』を立ち上げた。「自然な子育てと地元が無農薬野菜の給食」。糸島の自然の中でのびのびあそぶことや、子どもたちの世界を大切にしている。

しかし、長女の入園には間に合わず、小学校も公立に在籍しながら、3年間ホームスクールをすることになった。



午後の遊びの時間は裏山で



ないならつくればいい

生きる力を身に着けるために、子ども達に必要なことを考えた。本当に子ども達がここで過ごすのに必要なものだけあれば。

「どろあそび」ができ、「散歩に行ける場所」「優しい声掛け」「食事がある」。「ないならつくればいい」と『学校構想』をし始めたころ、思いを同じくする副理事長で中学部校長の西尾博之さん、西尾昌子さん夫妻との出会いがあり、運営者としてともに活動し、現在に至っている。



今日のミッションは

恵方巻作り

学校の2階から小学部13人の元気な声が聞こえてくる。授業はワークシヨップ形式が基本。



節分のミッション

《節分の意味を知り、恵方巻をつくる》
五分つきご飯を3、4年生の子どもが慣れた手つきで羽釜からすし桶に移し、うちわで扇ぐ姿も堂に入っている。小学部の13人は、2〜3人ずつ①ごはん②にんじん③あおな④菜の花⑤みそするチームに分かれ、作業をしている。『蒸す』『煮る』『炊く』『切る』



野菜の下ごしらえ ゆでる準備



酢めし作り



今年の縁起の良い方向は



巻きす上の海苔に具材をのせます

という動作、『数える』『読む』『仲間と協力する』『しぜん』・・・今日だけでなく、午前中の授業や、当番制の昼食作り、午後の自由活動には、学びの要素が多く盛り込まれている。ごく当たり前の日常の中で、この子ども達は、生きる力を自分のものになっていると感じた。



小さな学校の授業

この学校は通学が基本。糸島市をはじめ唐津からの通学生もいる。

学籍を公立の学校に置いているので、在籍学校への出欠や遅刻、早退を含めて毎月、報告を行っている。

小学部では、いわゆる国語、算数、理科、社会というはつきりした科目はない。一方的な知識の伝達ではなく、五感や身体性をともなうワークシヨップ形式の授業が主になる。例えば「もじとかず」「美術」「しぜん」「暮らしと料理」「ピーチクリン」「ブロックアワー(手造り教材を使った自学)」。中学部では、探求学習が中心的な活動。問いを立て、それについて様々な手法で探求・発表し、振り返りを次に生かすというサイクルで行われる。

この学校には、講師として実に多彩な分野から「産の森学舎」の理念に賛同する人物たちが集まっている。「好き」を極めた大人たちの関りは、きつと子ども達の興味や探求心を引き出し、してくれるに違いない。

最後に、大松さんからのメッセージを伝えたい。『100人いれば100通り。自分らしくいられる環境もまた、それぞれに違って当然。』

子ども達の生涯学習の土台づくり、そして将来の社会的自立に向けて、フリースクールの意義・役割は、今後大きく広がっていくと確信しています。環境そのものが学びの場です』



コロナ禍で開催できなかった「家庭の日」オアシス運動の最優秀・優秀作品の表彰式が3年ぶりにアクロス福岡で開催されました。被表彰者20名のうち16名が家族と一緒に参加され、会場は関係者も含め久しぶりに活気にあふれました。最初に主催者である県民会議・家庭部会の杉原会長の挨拶に続き、表彰状が各部門の個人に渡され、専門審査員の講評が読み上げられました。作文部門…最優秀賞の福津市立福岡中学校3年生の木原日和さんは欠席で残念でしたが出席者の皆さんはとても晴れやかな表情でした。作品の展示は1月16

祝

日時.. 令和5年1月22日
13時30分〜

場所.. アクロス福岡6階

「家庭の日」
オアシス運動
最優秀・優秀作品
表彰式

日から表彰式当日の22日迄アクロス福岡2階のメッセージホワイエで開催されました。受賞者は作品の前で家族と一緒に記念写真を撮ったり、改めてご自分の作品を見ている姿も印象的でした。訪れた人たちや通りがかりの人たちも素晴らしい作品に足を止め、熱心に作文を読む人もいました。



インタビュー

ポスター最優秀賞

福津市立津屋崎小学校4年生 諫元妃莉(ひらり)さんに受賞の喜びを聞きました。

Q 受賞の知らせはどなたから？ その時の気持ち聞かせてください。

「受賞は学校から帰った時にお母さんから聞きました。とてもうれしかったです。」

Q 今回が初めての応募ですか？

「作文は応募したことはありませんが、ポスターは初めてです。」

Q ご自分の絵がカレンダーになることは？

「うれしいけど少し恥ずかしいです。」

Q 今日はどうだと来られましたか？

「お父さんとお母さんと妹と来ました。妹も今回一緒に応募しました。」

Q 来年も挑戦しますか？

「はい。また妹と挑戦したいと思います。」と意欲を語ってくれました。



広報部会委員の募集!!

県民会議では、広報紙「若いなかま」の広報部会委員の募集を行っています。「テーマに沿って、取材を行い、記事にする」また、自らの経験値を高める事にもなります。興味のある方、お気軽にご連絡ください。

一、補充人数 若干名

二、活動内容

- (1) 広報「若いなかま」年3回発行(7月、11月、3月)の企画・取材・編集等
 - ①企画・編集会議出席数(各号の発行毎)
 - ・約15回(午後1時30分から16時くらいまで)
 - ②担当記事の起案作業
 - ・研修会等の事業や特集の取材を行う。(分担取材)
 - ・主な行事
 - 総会(5月)、「野外学習」(8月)、県団基大会(8月)、少年の主張県大会(8月)、青少年育成指導者研修会(11月)、乳幼児教育研修会(2月)等

(2) 特集などを企画する場合は、複数委員で取材を行う。

- ①市町村会議のとりくみや人物の取材
- ②少年院等の更生施設や青少年・福祉施設の取材

三、費用弁償

(1) 旅費と日当(必要に応じて弁当等)

四、手続き

①本人就任了承 → ②広報部会長が推薦 → ③理事会に報告 → ④部会で活動

五、連絡先

(公社) 福岡県青少年育成県民会議事務局
育成課(広報部会担当) 田中
TEL: 092-643-6001 FAX: 092-643-6001
メール: tanaka.m.1803@diary.ocn.ne.jp

FFG ふくおかフィナンシャルグループ

あなたのいちばんに。

ふくおかフィナンシャルグループは、まちや人が輝く場面をともに創り、寄り添うことで、地域とともに、お客さまとともに成長していく存在となることを目指しています。

いちばん近くで いちばん頼れる いちばん先を行く

それが、私たちからお客さまへの約束です。

福岡銀行



令和4年度（公社）福岡県青少年育成県民会議へ賛助いただいた会員の御紹介

令和5年3月1日現在（敬称略・50音別）

次の世代を担う青少年の健全育成活動にご支援いただき、誠にありがとうございます。心から御礼を申し上げます。

特別賛助会員の皆様

(株)アサヒ緑健
 エントリーサービスプロモーション(株)
 九州電力(株)
 九州旅客鉄道(株)
 (株)QTnet(キューティネット)
 (株)九電工

西部ガスホールディングス(株)
 J Aバンク福岡
 (株)新出光
 (株)筑邦銀行
 (株)西日本シティ銀行
 西日本鉄道(株)

日本食品(株)
 日本たばこ産業(株)
 (株)福岡銀行
 福岡県市長会
 福岡県町村会
 福岡県信用保証協会

(公社)福岡県宅地建物取引業協会
 福岡県公認ボウリング場協会
 (株)福岡中央銀行
 ボンウェイ(株)

団体賛助会員の皆様

(株)あらい
 (株)有明ねっとこむ
 (NPO)飯塚市青少年健全育成会連絡協議会
 糸田町自由ヶ丘老人クラブ鶯会
 岩崎建設(株)
 岩本明子英会話教室
 上村建設(株)
 (株)おおすみ制服
 大野印刷(株)
 大野城ライオンズクラブ
 粕屋殖産(株)
 嘉穂無線ホールディングス(株)
 (株)環境開発

苅田ライオンズクラブ
 (合)キャメル
 キューサイ(株)
 (一社)九州学士会 福岡支部
 久留米商工会議所
 (医)光風会宗像病院
 公立学校共済組合福岡宿泊所
 (株)三広
 (NPO)次世代の子カラFUKUOKA
 新善テック(株)
 (医)成晴会 堤病院
 (株)瀬利宗助商店
 大同建設(株)

(株)千鳥饅頭総本舗
 東京海上日動火災保険(株)
 (株)西日本新聞ビルディング
 (一社)日本アミューズメント
 産業協会 福岡県本部
 (一社)日本映像制作・販売倫理機構
 日本製鉄(株)九州製鉄所八幡地区
 (株)八ちゃん堂
 (株)ヒロカネ
 福岡県私学協会
 (社)福岡県私立幼稚園振興協会
 福岡県商工会連合会
 福岡県農業協同組合中央会

福岡県遊技業協同組合
 (一社)福岡県労働者福祉協議会
 (社)福岡コロニー
 (学)藤川学園
 (株)フラウ
 (株)フラワービデオ
 (株)丸信
 三井松島ホールディングス(株)
 (株)ミナミ商事
 明治安田生命保険相互会社
 (株)百田工務店

個人賛助会員の皆様

青木 毅	因 征四郎	越智 康久	河野 達海	杉原 敏子	中島 利男	原 明義	船越 章夫	村田 洋平
青野 隆子	上野 一成	落石 藤隆	古賀 祐三	陶山 正徳	中嶋 俊子	原口 庄塑	古川 雅子	村山 真知子
赤尾 浩太郎	上村 育也	小野 剛史	古園井 広記	関 好孝	中嶋 浩	稗田 慶子	戸次 光生	本園 明
赤星 満子	牛島 昌哉	戒田 協枝	児玉 弘	瀬口 和幸	長野 一江	東 久恵	堀家 克巳	森 美智代
秋山 憲一郎	内山 慶子	陰山 博	小林 祥彦	副島 紀身	長野 繁蜜	東 良	真石 太	守田 栄三
秋吉 幸二	梅木 聡子	笠原 高司	小原 康弘	大安 弘薫	中原 あや子	久門 尚基	松石 量則	森永 泰雄
浅野 翔太	江川 洋	香月 均	小宮 董	高井良 優里	中原 憲幸	久下 正俊	松枝 米洋	森山 祐二
穴見 英三	江崎 美津子	加藤 重敏	権現 昭二	竹井 章	中村 香代子	秀 ハツエ	松川 里美	八木 信次
新井 潤	江崎 峰子	金澤 克朋	佐藤 和久	竹田 芳朗	中村 清	兵頭 正俊	松隈 秀隆	安武 憲明
新井 洋子	大内 マツノ	金子 博	佐藤 俊之	田代 強一	中村 治幸	平野 学	松本 美香	彌永 九州男
井浦 蘭子	大島 勇夫	樺島 希世子	佐藤 政幸	田代 保博	中村 睦子	平野 真規	松本 洋子	山田 貴文
伊折 千秋	太田 強	樺島 義幸	島田 達也	田中 信	中村 良洋	深見 健児	松本 義明	山田 憲勝
石川 治夫	大橋 拾子	神谷 龍治	下田 善太郎	田中 浩治	西川 幸子	福井 悦子	松本 好成	山田 幸美
石橋 具規	大原 始	河合 昭江	下茂野 寛	田中 祐二	野上 明倫	福澤 信義	三島 正浩	山根 彌太郎
伊東 清寛	大曲 昭恵	城戸 徳郎	城 裕介	津上 正幸	野口 和恵	藤岡 ひとみ	満生 充一郎	横溝 千里
伊東 望	大群 拓也	木下 尊雅	庄司 真美	手島 道子	葉玉 博幸	藤田 孝子	光永 法子	横山 繁利
井上 俊治	岡松 直照	具志 道次	末崎 牧	徳永 秀昭	花田 拓	藤田 信治	光延 時江	吉田 壽一
猪瀬 正典	岡村 純子	熊野 君男	末田 金次	徳永 文晤	花田 真雄	藤津 権三郎	南 巧	吉留 節子
入江 智子	奥 久志	熊本 幸雄	末次 威生	泊 武人	馬場 京子	藤本 廣子	見雪 和之	吉野 利子
岩崎 高行	小串 保子	倉富 美智子	末松 六則	富松 文夫	馬場 忠久	藤本 孝	牟田 敏雄	吉原 陽子
岩村 幸二	尾座本 宜一	厨 元博	須貝 由美子	中島 貴美子	林 賢太郎	不動 勝義	村田 浩	米倉 秀之
								米倉 正廣

大きな銀行より、
 大好きな銀行に
 なりたい。



この街でこいっしょに
福岡中央銀行

事務局だより

主な行事 (R4年11月16日～R5年3月31日)

- 4日(日) 「育成キャンプ」報告会
13日(火) 青連協常任委員会 (ZOOM会議)
19日(月) 役員・顧問専門部会委員会合同会議
28日(水) 仕事納め

R5年

- 1月 4日(水) 仕事始め
13日(金) 第3回家庭部会 (以降3/10)

- 16日(月) 「家庭の日」「オアシス運動」作品展 (～22日)
17日(火) 第11回広報部会 (以降2/7・21、3/7・17)
22日(日) 「家庭の日」「オアシス運動」作品表彰式

2月

- 1日(火) 県民会議事業県庁ロビー展示 (～7日)
3日(金) 「若いなかま」特集、フリースクール「産の森学舎」取材
8日(水) 乳幼児教育研修会
11日(土) 12日(日) 青連協、青年リーダー養成事業「子どもを伸ばす指導者になるアドベンチャーFA研修」福岡県民さわやかマラソン大会第4回事務局会議

3月

- 8日(水) 総務部会
11日(土) 第4回健全育成部会
15日(水) 第3回理事会

新賛助全員紹介 (R5年2月現在)

個人賛助会員

岡村純子 (福岡市)

赤い羽根共同募金



高齢者、障害者、子どもたちなどへの地域の福祉活動を支援します。災害時には「災害ボランティアセンター」の設置や運営にも役立ちます。

この広報紙は、共同募金の配分を受けて発行しています。

編集後記

コロナ禍での広報委員会は多くの制約の下何とか継続してきた▼イベントの取材ができない・事業の中止・委員会が開催できない等ページ数減を余儀なくされたことも▼今回はコロナ前までとは行かないが感染対策をした上で「特集と家庭部会の2つの事業」の取材ができた▼久しぶりに活気を取り戻している▼中でも今回の特集記事「フリースクール・産の森学舎」はユニークで糸島のここにはしかない唯一無二の学校▼全国展開のフリースクールは身近にあるけれど▼ここは趣旨に賛同したスタッフが自由に自然体で子どもたちと共

づくりを目指す「産の森学舎」の活動に今後も注目したい。
県民会議広報部会長 馬場京子

青少年育成 “考”

『青少年育成に思う事』



公益社団法人 福岡県青少年育成県民会議理事
久留米市青少年育成市民会議会長 中井 久

「集合、みんな元気ですか」「元気です」「具合の悪い人はいませんか」「今日も練習、頑張りましょう」「ハイ、一月末の放課後、私の校区でもこんな感じで駅伝大会の練習が始まりました。やっばり、子どもたちの元気に活動する姿を見ると嬉しくなります。毎年2月に開催される久留米市少年健全育成駅伝大会は久留米市内46校区対抗で市民会議の最大のイベントです。今年も3年ぶりに実施できそうです。昨年も開催予定で計画を進めてきましたが、コロナで3週間前に中止の判断を下す結果となりました。久留米市青少年育成市民会議は、青少年の健全育成に携わる29の団体の集合体として昭和52年に設立しました。その中核にあるのが久留米市校区青少年育成協議会(校区青少年協)です。現在は校区青少年協の会長も兼任しています。市民会議の主な年間行事は、青少年弁論大会(6月)、青少年健全育成市民大会(7月)、少年の翼(8月)、子ども文化祭(和太鼓共演会・ふれあいスケッチ会)(11月)、そして2月の駅伝大会です。この3年間は、コロナ禍という理由で多くの行事が延期や中止となつて、子どもたちの活動の場が奪われてきました。コロナを理由に中止することは簡単です。多くの市民は、「コロナだから仕方ない」「やむを得ない」と言われ納得されませんが、私はコロナ禍でもできる方法を探して、何とか子どもたちの活動を保証したいと考えてきました。思うようにはできませんでしたが、何とか周りの皆さんスタッフの協力もあり規模を縮小したり、感染対策を十分に行いながら開催する事が出来ました。皆さんに感謝しております。私が青少年育成に思う事は「挨拶」が大事だということです。挨拶はコミュニケーションの基本で、挨拶を通して、子どもたちの公共性や社会性を醸成していくことはとても重要なことだと考えます。その為には私たち大人が手本になることが大切です。最近では横断歩道の一時停止が問題になっていますが、挨拶をして渡り合えたらどんなに嬉しいか、車同士の譲り合いの時に会釈一つでどんなに和むか、挨拶がきちんと出来れば社会人になっても上手いと思えます。私は多くの小中学校にお邪魔する機会があります。先生から気持ちよく挨拶して頂ける学校の生徒の皆さんは、気持ちよく挨拶してくれています。まずは、気持ちの良い挨拶からだと思います。今後も市民会議は、校区青少年協や関係団体と連携しながら、青少年の健全育成に努めて参ります。

青少年の健全育成のために

賛助会員入会のお願い

次代を担う青少年の健全育成を図るため、県民会議は、少年の主張大会、野外学習、マラソン大会など、様々な活動を行っています。県民会議では、賛助会員の募集を行っています。会費は左下のとおりです。電話(092-643-6001)をいただければ、資料をお送りいたします。

賛助会員の年会費

- 個人 1口 1,000円
法人又は団体 1口 15,000円
特別賛助会員 1口 50,000円

納入いただく方法

会費は、公益社団法人福岡県青少年育成県民会議の次のいずれかの口座に納入していただくか、県民会議事務局に直接ご持参ください。
西日本シティ銀行千代町支店 (普通預金) 3053033
福岡銀行県庁内支店 (普通預金) 526475
筑邦銀行福岡営業部 (普通預金) 1597091
福岡中央銀行本店 (普通預金) 1030569
ゆうちょ銀行振替 01700-5-4057

